

地域ニーズに応える地域活動の充実による キャリア教育の推進

千葉県立市原特別支援学校

電話 0436-92-5281

FAX 0436-92-0230



研究のポイント

つるまい風の丘分校のキャリア教育の推進を図るため、専門教科の中で取り組んできた「貢献活動」を、地域の方と一緒に働く「地域協働・貢献活動」として、次の2点に取り組んだ。1点目は、「地域協働・貢献活動」とキャリア発達の関係について整理・実践し、その効果を検証した。2点目は、地域住民や事業所との活動を通じたニーズの把握とアンケート調査による地域への影響を検証した。

■学校の概要 <https://cms2.chiba-c.ed.jp/ichihara-sh/bunhome>

つるまい風の丘分校は、平成22年に開校した、市原特別支援学校の高等部、専門学科の分校である。園芸技術科（農業コース、園芸コース）と流通サービス科（流通コース、情報コース）の2学科4コースが設置されている。「健康」「思いやり」「挑戦」「貢献」の4つを目指す生徒像として掲げ、社会的職業的自立を目指し、教育活動に取り組んでいる。令和6年度の生徒数は90名である。

■研究課題

地域協働・貢献活動の実践を通じたキャリア教育の充実について実践研究を行う。

■研究の目的と方法

＜目的1＞生徒のキャリア発達や主体的な姿につながる地域協働・貢献活動の在り方を検討する。

＜目的2＞地域ニーズを踏まえた地域協働・貢献活動の在り方を検討する。

- ・外部講師を招聘したキャリア教育に関する研修
- ・1000か所ミニ集会等を活用して、地域ニーズの調査
- ・キャリア教育の視点から地域協働・貢献活動を整理、実践
- ・生徒、教員の質問紙調査と事例生徒へのインタビュー調査

＜目的3＞地域ニーズを踏まえた地域協働・貢献活動による地域への影響を検討する。

- ・活動を実施した事業所、地域の方への質問紙調査

■研究概要

＜目的1・2＞の成果

○校内研修会等の活用による「分校のキャリア教育」の共通理解・明確化
キャリア教育を“「自分らしく自立する」ための教育”と共通理解を図ることができた。共通理解した内容を、分校の目指す生徒像に関連させて整理し、分校のキャリア教育を明確化することにつながった。

○地域ニーズの把握

地域住民及び地域の事業所には、①地域の店やイベントを盛り上げたい、②若年層の人手不足を解消したい、といったニーズがあることが判明した。1000 か所ミニ集会で生徒参加の意見交換会を実施し、生徒も地域の方から直接ニーズを聞き取る機会となった。

○地域協働・貢献活動の実践

各学科・コースで合計30回(4～11月)の実践を行った。上記のニーズに応え、施設の環境整備・清掃、野菜の移動販売、サロン事業の補助等を行った。普段学習している知識技能を発揮し、協働する活動として、事業所への清掃技能の指導や、団体職員が苦手としているデザイン・PC作業の受託を行った。

○生徒の主体的な姿へのつながり

生徒、教員の調査から、地域協働・貢献活動では、生徒が主体的に活動できていたことがわかった。インタビューでは自分の役割を主体的に行おうとする姿が報告された。また、『初めての場所や分からないことだからこそ、自分から質問や確認をする』、『活動を繰り返して見通しがもてることで自分から働く』などの姿も見られた。学校で学んだ知識・技能を、学校と異なる環境で発揮する、という枠組みが生徒の主体的な姿につながることを示された。

○期待されるキャリア発達への効果

「他の人と協力して、自分の役割を果たそうとする」項目への回答が多く、チームを組み、役割分担をして働く、地域協働・貢献活動を行った結果であるといえる。社会の中で自分の役割を果たしながら働くことはキャリア発達の重要な要素であり、地域協働・貢献活動がキャリア発達を促進することが示された。

生徒から、地域協働・貢献活動で一緒に活動した方の良い姿を学び取っていることが示された。連絡・報告・相談を含めたコミュニケーションの重要性の気づいた、コミュニケーション力の向上につながっている、普段から人の役に立とうとしている等が報告された。地域の方と協働することにより、人と関わり社会で働くことの自覚と自信を得た。

＜目的3＞の成果

○地域への影響

アンケート調査から、「障害者と共に生きる地域社会が促進される」についての項目への回答率が高く、対等な関係として働く活動が、障害の有無にかかわらず共生する地域づくりに影響する可能性が示された。

＜今後の課題＞

- ・キャリア発達を促す、「主体的」「協力・役割」という観点に着目し、活動の積み重ねによる変容や、卒後にどう生かされるか調査する。
- ・より地域社会とのつながりを考え、主体的に取り組めるように生徒たちがニーズを「自分事」として理解し、自らニーズに応じて活動する実践を行う。
- ・計画的・継続的な活動になるように実施時期や内容について検討を行う。

関連資料

- ・『中学校・高等学校キャリア教育の手引き』 文部科学省
- ・『キャリア教育を取り入れた特別支援教育の授業づくり実践編』 上岡一世
【明治図書出版】

